

2月11日(日) 10:00~11:30 赤羽文化センター第1視聴覚室において、2月例会・教養講座を開催しました。講師は手話通訳士の中村みずほ氏で、手話の楽しさと多様性について教えていただきました。参加者は27名でした。



★今回の学習内容★

1. じゃんけん手話単語

グループ内でじゃんけんをして勝った人の出した手の形の手話単語を発表。手話の語彙を増やしていきましょう。

2. 同音異義語クイズ

問題1 「秋、木になる果物」「養殖もできる貝」 答えは「柿」「牡蠣」

問題2 「ユニクロで〇〇〇〇を買う」「病院で〇〇〇〇を受ける」 答えは「衣料」「医療」

問題3 「いい人は〇〇〇〇が良い」「時計は〇〇〇〇がよい」 答えは「性格」「正確」

クイズを楽しんだ後、手話表現も教えていただきました。

3. 手話の多様性を学ぼう

例 「いっぱい」

① 駐車場に車がいっぱいです。

② 会場は人でいっぱいです。

③ 2月いっぱい休みです。

④ ごみがいっぱいです。

⑤ お風呂の水がいっぱいです。

手話は見ることば。おなじ「いっぱい」でも意味に合った手話表現を考える必要があります。手話の多様性を学んで、伝わる手話を目指しましょう。



コミ男とモア子のしゅわ談義



コミ男： 今回の教養講座のテーマは「手話の楽しさと多様性を知ろう」でした。

モア子： 「すみません」という言葉は、「謝罪」(申し訳ありません)や「感謝」(ありがとう)、「依頼」(呼びかける)というように複数の意味がありますが、日本語を母語とする私たちは、意味を自然に使い分けて話しています。

コミ男： でも、手話で表すときは、意味に合わせて表現する必要があるね。具体的に表現すると相手に伝わりやすいということを学びました。

モア子： そうですね。手話は「見る言葉」だということを改めて感じさせられましたね。